



## 「自分 × 仲間 × 地域」の熱量を携える「ひと」

兵庫県には、各地さまざまなシーンの中で、圧倒的な熱量を発する「ひと」が数多く存在します。そんな、スゴい「ひと」を私たちは「すごいすと」と呼びたいと思います。2013年にスタートした「すごいすと web マガジン」。この10年間で取り上げたのは、161人、31団体！たくさん集まった「すごいすと」たちの熱量が、大きく、大きくなり過ぎて、web マガジンからあふれ出ようとしています。そこで「すごいすと 誌面版」のお届けです！これまで掲載した記事の中から、特に大きな熱量をテーマごとにピックアップ。「我こそは！」という熱い「すごいすと」をご紹介します。手にしたあなたが、次の「すごいすと」かもしれませんよ！

お問い合わせ・連絡先  
兵庫県 県民運動課  
神戸市中央区下山手通 5 丁目 10 番 1 号 電話：078-341-7711 (代表)



### ITAMI GREENJAM

伊丹市昆陽池（こやいけ）公園を会場に、2014年9月から始まった野外音楽フェス ITAMI GREENJAM（伊丹グリーンジャム）。市民参加型と無料開催にこだわる関西最大級規模のイベントだ。数々の有名アーティストによるライブから、子どもたちの企画でつくるキッズエリアまで、様々な表現を集めた「アート」で豊かな社会づくりを目指す。

大原 智さん  
一般社団法人 GREENJAM  
(グリーンジャム)



まちにアート、足りてる？！  
絵や音楽が地域に場をつくり、人をつないで仲間を育む。生まれた仲間が、まちに新たな場を育てる。このにぎわいの循環こそ、地域づくり！

### ギャラリー アーツ&ティー

昭和初期に建てられた、金融機関の事務所を修復したギャラリーカフェ「ギャラリーアーツ&ティー」。絵画や工芸などの展覧会、ジャズやクラシックをはじめ和楽器によるコンサートや、語学・文学サークルの企画運営などを通じ、地元の文化と芸術を結び活動が繰り返されてきた。今では龍野のシンボルとして人を繋ぎ、まちづくりを牽引する存在へと進化を遂げている。

井上 美佳さん  
ギャラリー アーツ&ティー



### にぎわい拠点 とゞ兵（とどひょう）

廃業により、地域の足が遠のいてしまった元老舗料亭の建物を、人々が集う場に再生させた小山俊和さん。ショップ運営やテナント誘致、シェアオフィスやワークスペースの開設の他、オープン以来、海外生活での経験と人脈を活かしたアートと音楽のイベントや、クリエイター作品と食を集めたマルシェを随時開催。豊岡のまちで、場とモノ、人をつなぐ活動を続けている。

小山 俊和さん  
にぎわい拠点 とゞ兵（とどひょう）



### すごいすと交流会レポート

#### 「出会いの場」 つくってま

すごいすとに  
会いちゃう！



豊岡のとゞ兵でも開催された 一つの机を囲む「すごいすと」と参加者



笑いたっぷりに語る「すごいすと」たち 「すごいすと」との距離が近い！活気づく会場

「すごいすと」たちの話を直接聞ける交流会を開催しています。トークセッションでは「すごいすと」の熱量を堪能！交流タイムでは新たなつながりが生まれ、大変な盛り上がりでした。足を運ぶと、あなたの中の「何か」が変わる「すごいすと」と出会えるかも。一度のぞいてみませんか。



これまでの交流会や今後の開催情報は「すごいすと」のHPをチェック！

### 過去のすごいすとを再取材

## 2013 → 2023 すごいすと ぶいたたび

#### 家島の暮らしと観光客をつなぐ案内人 「いえしまコンシェルジュ」

家島の暮らしに魅了され、自ら移住してまちづくり活動をスタート。協力者・スタッフを増やしなが、観光ガイドやカフェの運営に携わる他、一棟貸宿施設や移住希望者の住まいとして空き家の利活用にも取り組み、家島の暮らしを楽しみたい人を増やすべく活動を続けている。

中西 和也さん  
いえしま  
コンシェルジュ株式会社



2013年取材時  
家島に移住して2年  
いえしまコンシェルジュとして活動

2023年取材時  
家島初となる一棟貸しの宿泊施設  
「家島ハレテラス」を運営

2013年取材時  
創設者である前代表・森正枝さんが  
精力的に活動中

2023年取材時  
2021年の新型コロナウイルス感染拡大による活動休止期間を経て、新代表・赤木友香さんと新メンバーで活動再開

#### 子どもも大人も、自然の中で遊んで育とう！

自由な遊びを通して、子どもたちのチャレンジ精神を支援したいとスタートして18年。2022年からは、前任者の想いを引き継いだボランティアメンバーたちが、活動に取り組んでいる。子どもたちのために、保護者のために、そして自分たち自身のために、心をひとつに前進中！

子どもの遊び場を  
考える会  
赤とんぼ



### お城マニア 本岡 勇一さん 城郭研究者



「城」の書籍を2冊も出版  
巡ったお城は全国3000か所  
開設したSNSも開発したアプリも「城」



30歳の頃、ドライブ中に偶然立ち寄った城郭に感動し、城巡りを開始。全国3,000か所以上を訪ね歩き、集めた情報の発信と仲間との交流のため、ホームページやSNSのコミュニティを開設。趣味を本職であるビジネスアプリ開発にも活かし、自治体の観光振興支援事業を展開。「歴史遺産として眠っている城を活かせば、地域はもっと元気になる。」との想いを胸に、多彩な活動を続けている。

### 能楽マニア 上田 敦史さん 能楽師大倉流小鼓方 株式会社伝楽舎



幼い頃から「能楽」暮らし  
丹波市に能楽企画会社を立ち上げ  
執筆した新作能狂言は10作以上！



丹波市唯一の能楽師として、注目を集め続ける上田敦史さん。能楽囃子方の家に生まれ、幼い頃から子方として舞台に立つ。高校2年で大倉流16世宗家大倉源次郎（現人間国宝）に師事し、能楽師の道歩んできた。現在、囃子方として舞台を勤める一方、地元の歴史や人物を題材にした新作能狂言の作者としても活躍中。これまでにない「ふるさと観光資源」の創出に精力的に取り組んでいる。

### 鹿肉マニア 鴻谷 佳彦さん 無鹿リゾーターシーフ



1年365日鹿肉を食べ続けた  
考案したレシピは1000種類  
丹波市が公認！「鹿肉レシピ」



鹿肉の柔らかさとおいしさに、驚きを隠せなかった鴻谷佳彦さん。さらなるおいしい食べ方を研究しようと決意し、1年間365日、鹿肉を調理して食べ続けた。そこで考案した1,000種類のレシピをもとに、2010年、丹波市に日本初の鹿肉料理専門店をオープン。害獣として捕獲された鹿すらも特産品へと変え、地元の食材で人を呼べる地産地消を丹波で育てていく。

### 鉱山マニア 正垣 智子さん 明延鉱山ガイドクラブ NPO法人一円電車あけのへ



鉱山ガイドのために水ノ山登山に挑戦！  
明延鉱山、数少ない女性ガイド  
きっかけは、たまたま訪れた坑道見学



明延鉱山の閉山から30余年。明延のまちにかつての元気を取り戻そうと、地域づくり活動に携わる正垣智子さん。明延鉱山の坑道を案内するガイドを行いながら、かつて地区の象徴だった、鉱石や人を運んだ一円電車を復活させた。「人のお話ができるのは幸せなこと」という母の想いを胸に、「原点」と語る坑道のガイドをはじめとするボランティア活動を今日も続けている。

PICK UP  
もう、「○○愛」が止まらない！  
「好き」とことん追い続けたら、プロフェッショナルになっていた！  
マニアの意味を「すごいすと」的に紐解けば、地元愛かもしれない！





「お母さん。」お店で働く在日アジア人女性たちを、奥尚子さんはやさしくそう呼ぶ。言葉も生活文化も異なる異国の地は、お母さんたちから夢も自信も奪おうとしていた。そんな女性たちに、母国料理をつくることで自立を促す食堂を開業。タイ、台湾、モルドバ、フィリピン出身のお母さんたちが、日替わりで母国料理を提供している。

奥 尚子さん  
神戸アジア食堂パル SALA



どこで味わえる？  
奥さんのお店「神戸アジア食堂パル SALA」  
〒650-0022 兵庫県神戸市中央区元町通 2 丁目 3-16

# すごいすとな グルメたち。

仲間×地域の熱量を、「おいしさ」に変えたスベシヤリテイ。「すごいすと」を味わいに出かけよう！

あったかさがスパイス、「おかん」の味は万国共通！



プラス1年がブランド化のカギ！「3年とらふぐ」



南あわじ市の南端は、うず潮で名高い鳴門海峡を中心とした好漁場。福良港の沖合では、とらふぐの養殖が盛んに行われている。福良漁業協同組合で組合長を務める前田若男さんは、通常は2年で出荷するとらふぐを、速い潮流の中で3年かけて養殖。「淡路島3年とらふぐ」と銘打って出荷し、いまや人気の淡路ブランドだ。

前田 若男さん  
福良漁業協同組合



どこで味わえる？  
南あわじ市のレストランや旅館  
前田さんのオンラインショップ  
「若男水産」でも買うことができます

お茶や料理でハーブを楽しむ農家レストラン



「ハーブで薬を作るから！」30年前のアフリカでの約束をきっかけに始めた、本格的なハーブの研究開発。自然界と常に謙虚に向き合うことで、ハーブの可能性を次々と引き出す福岡譲一さん。「ハーブによって救われる人が、一人でも増えるように。」との想いは、農家レストランやツーリズムといった活動にまで発展している。

福岡 譲一さん  
株式会社 香寺ハーブ・ガーデン



どこで味わえる？  
農家レストラン且緩々（しゃかんかん）  
〒671-2101 兵庫県姫路市夢前町山之内乙 120-1  
（旧山之内幼稚園）（香寺ハーブガーデン 文化と食の伝承事業）

カモミールの収穫風景



みんなで取り組む「チームすごいすと」のすごい場面

車椅子で海を楽しむ、笑顔はじける一枚



目指せ！全国のビーチのユニバーサルデザイン化！  
車いすで海を楽しむ！多くの障害者が諦めがちなアクティビティにチャレンジを呼びかけ、自信と楽しさ、仲間づくりを後押ししている NPO 法人須磨ユニバーサルビーチプロジェクト。生まれて初めて海に入った娘の笑顔に、父親をはじめ大人たちも歓喜の声を上げたベストショット！

NPO 法人須磨ユニバーサルビーチプロジェクト



スティールパンでひとつになる楽しさが伝わる一枚



神戸新長田から届ける、元気で希望のメッセージ

ドラム缶から作られた楽器、スティールパンの美しい音色に神戸の復興への想いを託し、オーケストラ「ファンタスティックス」を結成。エンターテインメントとして、防災教育として、時には希望を生み出す存在として。みんなで演奏を楽しむ時間には、心をひとつにする力を感じさせてくれる。

スティールパン楽団「ファンタスティックス」



みんなで取り組む

「チームすごいすと」のすごい場面



目指せ！全国のビーチのユニバーサルデザイン化！  
車いすで海を楽しむ！多くの障害者が諦めがちなアクティビティにチャレンジを呼びかけ、自信と楽しさ、仲間づくりを後押ししている NPO 法人須磨ユニバーサルビーチプロジェクト。生まれて初めて海に入った娘の笑顔に、父親をはじめ大人たちも歓喜の声を上げたベストショット！

NPO 法人須磨ユニバーサルビーチプロジェクト



スティールパンでひとつになる楽しさが伝わる一枚



神戸新長田から届ける、元気で希望のメッセージ

ドラム缶から作られた楽器、スティールパンの美しい音色に神戸の復興への想いを託し、オーケストラ「ファンタスティックス」を結成。エンターテインメントとして、防災教育として、時には希望を生み出す存在として。みんなで演奏を楽しむ時間には、心をひとつにする力を感じさせてくれる。

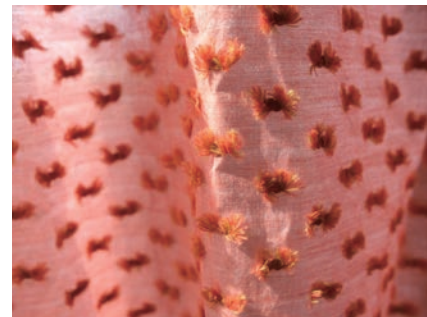
スティールパン楽団「ファンタスティックス」



播州織の可能性をもっともっと広げたい！産地とともに挑戦中。

祖父母が営むシーツの縫製工場遊び、高校では播州織の生地が使い放題。地場産業が身近なあまり、ふるさとを代表する世界的な織物だと気づかなかった小野圭耶さん。西脇市へ1ターン後、アパレルメーカーの「素材」だった播州織を、生地の「ブランド」として知らしめるための可能性を広げようと、産地全体での取り組みに積極的に関わっている。自らコットンを育て、糸づくりから製織、生地の開発を行う活動も展開中。

小野 圭耶さん  
テキスタイルデザイナー



# 裏方をやめた地場産業。

創り手の名も無き製品から、地域の顔となるブランドへ！  
“縁の下の力持ち”産業を表舞台へ導いたのは「ふるさとを元気に！」の熱い思い！

もう OEM 製品(\*)で終わらせない。世界が認める鞆ブランド「豊岡」を担う。



由利 佳一郎さん  
バッグデザイナー



日本有数の鞆（かばん）産地・豊岡市で生まれ育った由利佳一郎さん。東京で暮らし始めた時、周囲に「豊岡=鞆」と認識されていないことに違和感を覚え、豊岡鞆の価値と魅力を発信しようと決意。豊岡市に拠点を構えて立ち上げた鞆ブランドで、国内の鞆メーカー初のランウェイショーデビューを果たす。以来、世界で数々のアワードを受賞する一方で、ファッションブランドもスタート。現在、世界を舞台に「未知なる感動」を発信中だ。

\*OEM 製品：他社のブランドとして製造した製品

マンションの住人でにぎわう夏祭り



隣人とあいさつを交わし、イベントに楽しく参加する。防災意識が勝手に育つコミュニティのワザ。

「楽しくなければ防災の輪は広がらない。」と、「もちつき大会」や「夏祭り」などの多彩なイベントを実施。炊き出しの訓練を兼ねたイカ焼づくりも。地域の人たちが交流する機会をつくり、お互いの関心を高め合うことで、防災に対する意識に変化を起こした。マンション内のコミュニティの活性化により、防災意識と自主防災力を育んだ加古川グリーンシティの活動は、全国から注目を集めている。

明日からできるワザ  
ご近所の人に自分から挨拶をしてみる  
周囲に顔見知りが増えていくと、「いざ！」という時に団結できる。

大西 賞典さん  
加古川グリーンシティ 防災会



# 防災も、楽しくていい！

「まさか！」への備えをエンタメにしてみよう「すごいすと」なワザをチェック！



歌やライブで防災を呼びかける。シンガーソングライターのワザ。

防災メッセージをさりげなくしのばせたポップス調の爽やかなオリジナル曲で、防災啓発や被災地支援を行っているシンガーソングライター石田裕之さん。「人を愛したり幸せを感じたりするように、災害に備えることを語り合えるよう、防災の大切さを楽しむ音楽で分かち合う活動を広めたい。」と、ライブや音楽フェスを開催。エンターテインメントの力を防災に活かした活動を続けている。

明日からできるワザ  
居場所を知らせる「笛」を、普段から身につけてみる  
いざという時、音で SOS を伝えられる笛。リストバンドやキーホルダー型のものも。

石田 裕之さん  
シンガーソングライター、防災士

